

# 仮設住宅における外置き型収納の提案

A2201117 佐藤 怜

## 研究の概要

今年の春先、先生方にご一緒させていただき仮設住宅を視察に行きました。そこで住民の方のお話を伺ったりしたところ、様々な問題が浮き彫りになりました。後日個人的に何度か仮設住宅を訪問し聞き込みや視察を行ったところ、大きく分けて住民のマネー問題、スペース問題、プライバシー問題、生活環境問題の4つの問題がありました。

自分の住み慣れた家を離れ、まったく知らない新しい環境での生活におけるストレス負荷は、とても大きいと感じます。そこで、仮設住宅の住人の方々が少しでも暮らしやすくなるよう、また次の震災が起きた場合にも応用出来るよう、新しい製品を提供しようと考えました。

## 研究のねらい

仮設住宅はとても通気性が悪く、窓際は結露がすごく、棚を壁につけて設置してしまうと湿気によりカビが生えてしまうほどです。したがって室内に洗濯物を干すと室内の湿度はさらに上昇してしまうので、基本的に室内に洗濯物を干せません。室内に棚を後付けしようと思っても、制度の問題などで出来ません。また外に荷物を置いておくのは見た目が悪いだけでなく、防犯面、安全面も懸念されると感じました。

特に女性においては下着を外に干すのにはとても抵抗があります。しかし室内には干せず、かつ隣同士の距離が狭い仮設住宅での生活は、精神的なストレスが大きいと思われます。

この問題に対しどのような解決策があるか、宮里仮設住宅以外の会津にある仮設住宅を見て回ることにしました。訪れた仮設住宅は真宮、みどり公園、扇町1号、扇町5号、東部公園、二中西、城北です。そこでは日除けにおいてはみどり公園のような対策がされていました(写真1参照)。また、各仮設住宅の洗濯物は写真2、3のように干されていました。写真4のように外に野菜を並べている家庭や、図5のように外に植木鉢が沢山置いてある家庭もありました。

そこで当初は洗濯物を干せ、収納スペースもある日除け(図1参照)を考案していましたが、日除けではなく洗濯物が濡れずに干せる外置き型の収納を考えました。

図 1

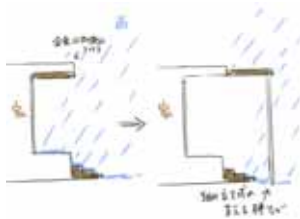


写真 1



写真 2



写真 3



写真 4



写真 5



## 研究のプロセス

8月21日に、会津美里町にある榎葉町の仮設住宅に宿泊体験をしてきました。宿泊体験を通し、仮設住宅における問題点を実際に体感してきました。また、生活してみないとわからない問題も判明しました。

9月末日から現在まで、会津にある仮設住宅を回り、住宅の外観の様子を観察しました。それにより、仮設住宅のある地域(住

んでいる住民)によって外観に大きく差異があることがわかりました。ある地域では砂利の部分ギリギリまで物を並べていたり、ある地域では砂利の部分はほとんど手をつけていなかったり、各仮設住宅にはそれぞれ異なる特徴や傾向がありました。このことを受け、住人の方が自由に使えるような汎用性のある製品にしようと考えました。

10月から12月まで、模型を試作しながら完成品のイメージに近づけていきました。

図 1

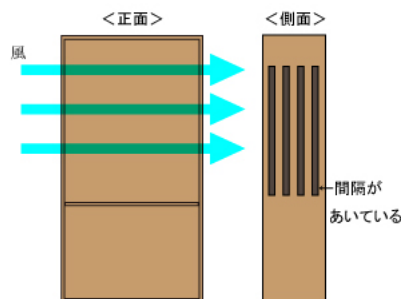


写真 1



## 成果物(設置予想図)



箱型収納はステップの両側に設置します。収納部分の箱型収納は杉材とコンパネで出来ており、コンクリート製の踏石の上に設置し、固定されています。

写真 1 の向かって左側の上半分は、洗濯物を干せ、もう片方は収納に特化した構造になっています。洗濯物を干せるよう通気性を高める為に前後に隙間をつくりました。また、天板の部分は透明の塩ビの板材を使用しており、日光を収納の内部に取り入れられるようにしました。扉がついており、出来るだけ干してある洗濯物が外部から見えなくなっています。右側のものは上部が収納、下部は鉢植えなどの収納スペースになっています。右側の上部には棚がついているので、大きさの異なるものも収納出来ます。下部は鉢植えや野菜が置けるよう、底板をすのこ状にしました。

大きさは高さ約 1700mm、幅 900mm、奥行き 400mm となっています。

## 考察

今回このテーマに取り組み、初めて仮設住宅の問題の多さを実感しました。少しでも生活の負担を無くしたいと思い製作したのですが、いくつか改善点が浮かび上がりました。

一つ目は、洗濯物を十分に干せるスペースが確保できなかったことです。隣の家との間隔の問題もあるのですが、十分にスペースを確保できなかったため、窮屈なつくりになってしまいました。できればもう少しスペースを増やし、大きめの洗濯物も干せるようにしたかったです。

二つ目は、外見がありきたりなものになってしまったことです。もっと住宅の概観にマッチしていたり、住人の方の個性が目立つりするようなデザインを考えればよかったと感じました。

また取材をしているときに住人の方に不審がられたので、住人の方にも心配をかけないよう、腕章など外見で取材を行っている判断できるものを事前に製作していればよかったです。